

平成22年度 市長賞受賞の方々の紹介

平成23年2月17日(木)に平成22年度に各方面でご活躍され受賞された団体、個人を紹介しします。今年度は、3団体、35個人が市議会議場で井崎義治市長から表彰されました。

番号	学校名	学年	氏名	成績
1	流山小	6	深谷 颯汰	第6回小学生パティシエ選手権 優勝
2	新川小	5	種村由紀乃	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 女子200Mリレー 第4位 千葉県春季水泳競技大会 小A男子50M背泳ぎ 第1位 小A男子100M背泳ぎ 第1位
3	江戸川台小	6	加藤 隼貴	千葉県学童学年別水泳競技大会 6年男子100M背泳ぎ 第1位 6年男子50M背泳ぎ 第1位 千葉県秋季水泳競技大会 男子100M背泳ぎ 第1位
4	江戸川台小	6	渡辺 海香	第34回 夏休み犬の絵コンクール 小学校高学年の部 最優秀賞 理事長賞
5	江戸川台小	5	真鍋 璃美	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 女子200Mリレー 第4位
6	江戸川台小	3	石垣 和真	平成22年度歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール 千葉県知事賞
7	西初石小	6	鈴木 彩水	空手道拳道会第13回全国ジュニア選手権大会組手競技 小学5・6年女子の部 優勝
8	西初石小	6	熊澤 燎平	第36回千葉県空手道選手権大会 小学6年生男子 組手の部 優勝
9	西初石小	5	高川 楓	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 女子200Mリレー 第4位
10	小山小	5	黒澤 大地	第42回全関東学年別珠算選手権大会 個人総合競技 小学5年生の部 優勝 最優秀選手
11	南流山小	6	中村 一輝	関 孝和先生顕彰第61回全日本珠算競技大会 個人総合競技 小学生の部 優勝
12	南流山小	6	岸 結夏	第30回記念全日本バレーボール小学生大会全国大会 第3位
13	東深井小	6	中島 華穂	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 200Mメドレーリレー 5位
14	東深井小	団		平成22年度千葉県児童生徒・教職員科学作品展 科学論文の部 学校賞
15		団	ベガスジュニアFC 代表 中丸 大輔	四谷大塚杯第25回千葉県少年サッカー選手権4年生大会 第1位
16	南部中	2	小林 和希	第34回関東中学校水泳競技大会 男子400Mフリーリレー 第2位
17	南部中	2	今井 秀樹	第34回関東中学校水泳競技大会 男子400Mフリーリレー 第2位
18	南部中	2	荒井 聖矢	第34回関東中学校水泳競技大会 男子400Mフリーリレー 第2位
19	南部中	2	田中 秀典	第34回関東中学校水泳競技大会 男子400Mフリーリレー 第2位
20	北部中	3	猪狩 好	全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 男子200Mバタフライ(13~14歳クラス) 第6位
21	北部中	3	田中 幸徳	平成22年度千葉県新年フェスティバル水泳競技大会 男子200M平泳ぎ(13~14歳クラス) 第1位
22	北部中	3	野口 和希	第37回小石會書道展 読売新聞社賞
23	北部中	2	石川 美佑	平成22年度千葉県中学校新人水泳競技大会 女子50Mバタフライ 第1位
24	北部中	2	田辺 晃清	平成23年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール 林野庁長官賞
25	北部中	2	片瀬 萌南	第27回NHK杯全国中学校放送コンテスト朗読部門 優秀賞
26	北部中	2	池永 瑞品	LASF2010 Cheerleading International & Dance Worlds, Open Pom 第2位
27	東部中	3	泉 大介	第18回千葉日報杯千葉県ユースサッカー大会 優勝
28	東部中	2	鳥井 翔太	第18回千葉日報杯千葉県ユースサッカー大会 優勝
29	東部中	2	関口 真央	第35回千葉県中学校新人体育大会陸上競技大会 女子共通800M 第1位
30	東深井中	2	五十嵐未帆	2010年度JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会 女子カデットの部 38kg級 第1位
31	八木中	3	館野 周	文部科学大臣杯第6回小中学校将棋団体戦 千葉県選考会 中学の部 第1位
32	八木中	1	上島 司	文部科学大臣杯第6回小中学校将棋団体戦 千葉県選考会 中学の部 第1位
33	八木中	1	西村 雄太	文部科学大臣杯第6回小中学校将棋団体戦 千葉県選考会 中学の部 第1位
34	南流山中	3	岡田 佳祐	平成22年度第25回日本クラブユースサッカー選手権大会 千葉県予選 優勝
35	南流山中	3	井上 珠希	第56回全日本中学校通信陸上競技大会千葉大会 共通200M 第1位
36	南流山中	2	疋田 真鈴	平成22年度千葉県中学校新人体育大会水泳女子50M自由形 第1位
37	南流山中	3	栗田 莉沙	第36回千葉県なぎなた大会 小・中学生 上級の部 優勝
38	南部中	団		平成22年度千葉県中学校新人体育大会 水泳 男子総合優勝

11 能登の自然体験ツアー参加者募集

主催：石川県能登町 春蘭の里実行委員会
 日程：平成23年7月26日(火)～29日(金) 3泊4日
 場所：石川県能登町(春蘭の里) 募集人数：30人
 対象：市内在住の小学4～6年生 参加費：55,000円
 (航空運賃、交通費、宿泊費、食事代、体験費用、保険料を含みます。)
 参加申込：5月23日(月)～6月17日(金)
 流山市教育委員会指導課 7150-6105
 平成18年度より、石川県能登町で「能登の自然体験学習ツアー」を実施しています。能登町では、自然豊かな里山を背景とした、森歩きや川遊び、魚のつかみ取り体験などを楽しめる他、能登の伝統行事であるキリコ祭り体験などのメニューや農家民宿での分宿を予定しております。また、これまでに100名を超える流山市の小学生達がこのツアーに参加しており、「楽しかった。また来年も参加したい」「能登の友達もできた」など好評の声が届いております。是非、豊かな自然の中で思いっきり体験学習を楽しんでみませんか。

第17回 青少年のための科学の祭典 千葉大会

主催/青少年のための科学の祭典-千葉大会実行委員会、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館
 後援/文部科学省、全国科学館連携協議会、千葉県教育委員会
 昨年に引き続き、千葉市科学館と流山市生涯学習センターの二会場で「青少年のための科学の祭典千葉大会」が同時開催されます。日程は6月11日(土)、12日(日)の2日間、時間は9:30～16:00の予定です。
 入場は無料です。事前申し込みは必要ありませんのでふるってご参加下さい。様々な実験や工作を体験することができます。皆さんに安全に楽しんで頂くため、小学校低学年のお子さんは保護者の方と一緒にお願いします。
 ※いくつかの体験コーナーでは、整理券を発行し、時間帯を予約するものもあります。
 科学の祭典 検索

教育広報 **まごころ** 第51号
 編集発行 流山市教育委員会
 TEL 04(7158)1111

「学力」「気力」「体力」を基軸に

流山市教育委員会教育長 後田 博美



はじめに、過日の東日本大震災においてお亡くなりになられた皆様へ哀悼の意を表すとともに、被災された多くの皆様が一日も早く安全で安心できる生活ができるようになることをお祈り申し上げます。

この被害の中で、外国の方々を驚かせたことの一つに「被災地での住民のモラルの高さ。」があると言われました。こういった場合、私たちは過去からの教訓も含めて、なによりも秩序が大切であることを知っています。これは、私たちが今まで育ってきた風土や文化、そして国民性に他なりません。すなわち、ここは、教育や育みという存在がしっかりと感じられます。

これからも時代を超えても変わらないものと、新たな変化に対応しながら、進んでいくことが望まれるものと思います。

先日、「登校中に児童の一人が、交通指導員さんに、いつもありがとうございますと、お礼を言っている子どもたちの姿を見て、感動しました。」というお話をいただきました。

このように、登校する子どもたちの元気な挨拶や活動は、学校や地域を明るくしてくれます。挨拶や言葉遣いなどは、マナーという面だけではなく、人間的なかわりとして、とても大切なことだと思います。

私は、これから流山市の教育を推進するために、「気力」や「学力」、そして「体力」の三つの柱を基軸として、取り組んでいきたいと考えています。

今、日本全体が厳しい状況に直面しておりますが、未来を担う、将来を嘱望される子どもたちには、夢や希望をもって明るく元気に生活してほしいと強く願うところです。

そのためには、まず学校や家庭、そして地域が連携しながら、みんなで子どもたちの育みを支えていくことが、何より大切であると考えております。

感謝をこめて

前流山市教育委員会教育長 鈴木 昭夫



大震災、特に被災された方々の苦しみを思うと言葉を無くします。日本人すべての悲しみを今後のあり方に必ず生かしていくことが求められます。

この8年にわたり教育長職にありましたがこのたび退任いたしました。学校教育、生涯学習の二分野で、「真心教育」の推進にあたり、数々のご支援をいただきありがとうございました。

今日の少子高齢化社会にあっても、新線沿線を中心に人口増の本市ですので、僅かずつ小中生が増えていくため、現在おたかの森駅西側に小中各一校ずつ建設の運びとなっています。

在任中に特に心したことは可能な限り教育現場に出向くこと、また市民の皆様様の活動に多々参加し、ふれさせて頂きました。

何より嬉しいことは、各小中学校が地域、保護者との信頼関係づくりに努め、各種の活動に果敢に取り組まれていることです。このことは年に3回発行の教育広報紙「真心」に努めて紹介させていただきました。現在も新しい活動の立ち上げや行政との「協働」活動が展開されています。

一方、教育課題として感じることは、各地で「学校の商品化」の如き、「子どもの発達段階を無視」するかの様な活動の特化や早期の取り組みで、結果重視の環境に遭遇することが気になります。

また、今学級定員は40名となっていますが、現実には平均すると30名前後にあります。欧米なみをめざし35名学級が叫ばれています。しかし、余りにも学校の現状を理解していない要求で、もっと活用しやすい教職員の配置こそが急務と思われまます。

大震災を教訓とすることは心苦しいことですが、辛い渦中にある被災地の人々のまどまり、そして子どもたちの姿に対して、世界から驚嘆の声が上がってきていると伺っています。改めて今、我が国で心配されている「人々のかわり・結びつき」の再構築、若い小中学生教育の根幹は、「がまんや苦しさ」こそ価値ある学び、そのことが未来開拓への大切な礎となると信じます。

どの学校もそこにある子にとってかけがえのないもの、大人の学びと愛情で子らの意欲が引き立てられる教育が展開されますことを見守っていきたく存じます。ご健康をお祈りいたします。